

名古屋大学農学部・生命農学研究科同窓会関西支部  
**関西セコイア会同窓会報 第五号**

名古屋大学農学部・  
生命農学研究科同窓会

セコイア会



名古屋大学農学部・生命農学研究科同窓会 セコイア会

目次			
お知らせ			1
趣味の山	加藤 晴彦	昭53 農M	4
車なしの生活もいいものだ	馬路 泰藏	昭40 農化	6
玄宮園、日本庭園の魅力	早田 孝司	昭56 林産M	11
家具づくり	加藤 壽郎	昭45 農M	14

(ご寄稿いただいた順に、掲載しております)

## お知らせ

昨年は、久しぶりに、関西支部の同窓会を開くことができました。昨年11月11日土曜日に、14名の方にご参加いただき、楽しい一日となりました。当日は、タカラバイオ(株)の参事でいらっしゃる北川正成さん(昭59 農化)に「ゲノム解析技術の進歩と社会のかかわり」と題してご講演をいただく予定をしておりました。北川さんは、PCR検査試薬の開発と供給や新型コロナmRNAワクチンの製造などに携わってこられた方で、大変時宜を得たお話しとして期待しておりました。ところが、総会二日前に、北川さんのご母様様がご逝去されるというご不幸がありまして、急遽、ご講演を中止せざるを得ない事態となりました。大変残念な状況となりましたが、空いた時間を有効に使うため、出席され

た会員の方、全員に、大学時代の思い出などをお話いただくこととしました。たとえば、名古屋大学農学部入学の動機、在学中の印象的な出来事、記憶に残る先生のこと、思い出に残る友達、先輩、後輩のこと、在学中に学んだこと、卒業後の人生への影響、関西セコイア会参加の動機、きっかけ、などです。これまでの総会では、会員の方からお話いただくのは、懇親会での近況報告が中心でしたので、これはこれで、大学時代のことを改めて思い出して話し合う良い機会となりました。似たような思い出話があったり、初めて伺うようなお話であったり、同じ先生にお世話になっていたり、結構、盛り上がりました。ご講演の時間は1時間20分程度取っておりましたが、皆様、要領を心得ておられて、この時間をフルに使って、有意義なひと時となりました。写真は、参加された皆様です。

2023年関西セコイア会総会（令和5年11月11日、大阪中央電気倶楽部）



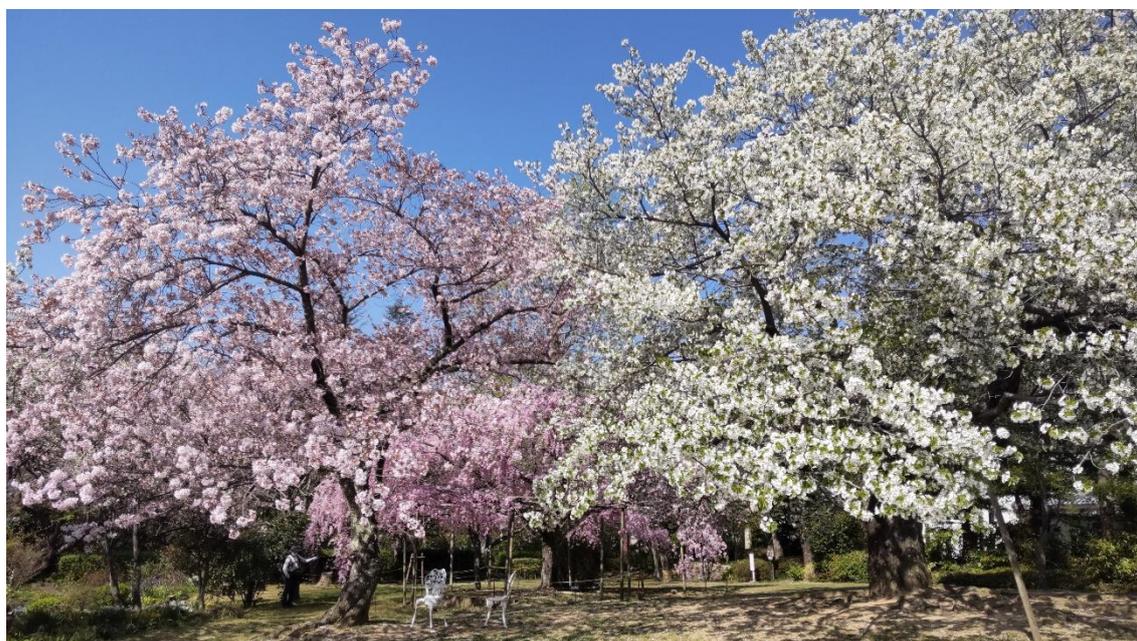
同窓会関西支部は、現在の役員として、支部長：加藤壽郎、事務局長：寺前朋浩、会計：井野右文、会計監査：野村章、顧問：入野哲朗が担当しておりますが、同窓会活動の一層の活発化のため、新たに、駒田肇さん（S55 林産D）、大賀久美子さん（S54 農化）、沖森泰行さん（S56 林）のお三方に顧問として幹事会にご参加いただくこととなりました。今後ますます関西支部の同窓会活動が活発になるものと確信しております。よろしく願い申し上げます。

なお、今年度、令和6年の同窓会関西支部総会は、11月9日を予定いたしております。日時が近づきましたら、再度、ご案内いたしますが、予定しておいていただければ、ありがたく存じます。

日時：令和6年11月9日（土）10：00～15：00

場所：大阪中央電気倶楽部

（支部長 加藤壽郎 昭45M）



西宮市北山植物園の桜



## 趣味の山

加藤晴彦（昭53農M）

私は1971年に農学部農学科に入学して、1978年に農学研究科栽培原論及び育種学教室で修士課程を修了しました。1978年に化学会社に入社し、農薬や肥料の開発普及を担当して2013年に退職しました。その後10年余りの間 趣味の山登りを中心とした生活を続けています。農学部同窓会関西支部からの依頼がありましたので、その山登りについて書きたいと思います。

私が初めて山登りを経験したのは中学の林間学校で御嶽山に登った時です。その時夏だというのに山頂ではこんなに寒いのかと思ったことが印象的でした。その後大学時代は研究室や学科の仲間と時々鈴鹿や岐阜の山に出かけました。入社後は職場のある関西の山々に出かけ、夏のシーズンには北アルプスなどの高い山に登りました。また1994年12月に会社の仲間とキリマンジャロに行った時から年に1回ほど海外の山へ行くようになりました。特に1997年12月仲間と南米のアコンカグアに登ったことはいい思い出になっています。退職後は登山の日数が増え、年間200日余り山に出かけています。このようにこれまで山登りをしてこられたのは健康と体力を維持し続けたことだと思います。また山と一緒に登る仲間がいたことです。そしてその都度目標とする山をきめてきたことです。

目標の最初は皆さんのご存じの日本百名山でした。それらの山は日本全土から選ばれ、3000m級の山も含まれる山なので大変だったのですが、これまで経験したことのない様々な山登りができました。その後は日本200名山、300名山が目標になりました。それも3年ほどで登ることができました。200名山 300名山は100名山で感じた多種多様な山の姿がもっと多く見られ、日本の自然のすばらしさをたえず感じることができました。目標としていた300名山が達成されるころに登った山で「日本の山1000」（山と溪谷社）という本があり、それに記載の山に登っているという人に出会いました。その後その1000山を目標に登山をつづけました。その本は名鑑なので登山ガイドブックではありません。山道の無い山、登山禁止の山、私有地で入山禁止の山などが含まれていますが可能な範囲で登りました。5年余ほどかかって登れる山は登ってしまいました。都道府県によってはその百名山が示されているところがあります。例えば北海道、福島 山形 山梨 群馬 長野 愛知 兵庫 広島 大分 宮崎などです。またそれ以外にも様々な地域から登山できる山のリストが出されています（そのリストは百以上あります）。最近はそれらを参考にしながら、鈴鹿 300座や岡山県百名山（改訂版）などの山を目標にしています。

右の富士山の写真は本年 2024 年 1 月 8 日に東京奥多摩の松生山に登った時のものです。富士山がきれいに見えます。関東の山に登ると天気良ければよく富士山を見ることができます。



左の袴ヶ仙の写真は昨年 2023 年 11 月 13 日に登った時のものです。寒波の襲来で岡山県美作市でも積雪がありました。ふもとではほとんど雪はありませんでしたが山頂近くでは 10cm 以上の積雪でした。誰もいない山頂は静寂そのものでした。

山は季節により様々な姿を示します。同じ山でも季節が変われば異なった山の様に感じます。また山登りは体力に応じて様々な登り方があります。これからも健康に留意して、登山を続けていきたいと思えます。



## 車なしの生活もいいものだ

馬路 泰藏 (昭 40 農化)

フレール予防をかねて、しあわせの村でテニスを週に1~2回楽しんでいく。しあわせの村は神戸市北区にあり、広大な敷地に様々なスポーツ施設・レジャー施設、日本庭園や広い芝生広場、宿泊施設、病院などのある総合福祉ゾーンである。車でしあわせの村へ通っていた時は、午後のテニスに間に合うように早めの昼食をとってから自宅を出発し、テニスが終わればそそくさと帰ることがほとんどだった。桜や紅葉のシーズンに日本庭園をテニスが終わってから散策することもあったが、テニスコートと自宅の往復にほぼ限られていた。



しあわせの村全景 (北口近くのビューポイントから)  
テニスコートすぐ奥の芝生は陸上競技場、左端の建物は宿泊施設  
中央奥の淡路島にかかる明石海峡大橋が小さく写っている

一昨年秋に車を手放してから、しあわせの村へはバスで通うことになった。そうになると昼食をとってからの出発では、午後のテニスに間に合わない。そこで、早めに家を出て、昼食は弁当のおにぎりを村内でとることにした。その結果、気ままに過ごす午前中の時間が生まれ、テニスコート周辺から日本庭園までの北東部だけでなく、南部にも脚を伸ばすようになった。



5月10日の蓮池  
芽をもたげた葉や広がり始めた  
葉はあるが数はすくない

しあわせの村の南部には、果樹、薬草、野菜などいろいろな植物を見ることができるエリアが設けられている。その中に小さな蓮池があるのを、昨年5月10日に気づいた。芽をもたげたハスの葉はまだ少なく、水面の葉にとまるクロスジギンヤンマが産卵していた。クロスジギンヤンマは胸部に特徴的な黒い筋があり、真夏によく見られるギンヤンマとは別種である。



産卵するクロスジギンヤンマ

クロスジギンヤンマというと、高校時代に部活でトンボを追いかけていた頃のことを思い出す。9月末に、かなり痛んだ「ギンヤンマ」を採集した。通常のギンヤンマとは違うので、深く考えずにクロスジギンヤンマだろうと思った。部活の機関誌にこのトンボの記事をのせる前に、部活の大先輩でとんぼについて研究しておられる石田昇三さん<sup>1)</sup>に見てもらったところ、

「クロスジギンヤンマは初夏に羽化するので、この時期にいるはずがない。このトンボは沖縄や台湾にいるオオギンヤンマだ。台風の風によってこちらまで来たのだろう。」

と教えていただいた。その頃の私は、とんぼのことをよく知る部員という顔をしていた。しかし、わずかな経験・知識しかなく、昆虫の同定には発生時期とのつき合わせが必要なことも分かっていなかったのである。そんなことを思い起こさせたクロスジギンヤンマとの「再会」だった。

6月22日に蓮池を訪れると、ハスは葉が茂り、つぼみも沢山上がってきている。28日になると見事なピンクの花が咲いていた。ハスは朝早く花が開き、午後にはしぼんでしまうので、ハスの花は午前中しか見ることができない。そんなハスの花が見られるようになったのは、車を手放したおかげだったのである。蓮池にはいろいろな品種が植えてあるので、8月中旬までハスの花を楽しむことができた。



6月23日の蓮池



6月28日



7月7日



7月26日

蓮池には、鮮やかな赤のショウジョウトンボもやってきた。これは、赤とんぼとして広く知られているナツアカネ、アキアカネとは異なる種である。これらの赤とんぼは羽化した直後は黄色だが、成熟すると雄は赤色になる。赤とんぼがなぜ赤くなるかについては、産業技術総合研究所の二橋亮主任研究員が次のように明らかにしている<sup>2)</sup>。



ショウジョウトンボ (7月7日)

ほとんどの昆虫の複眼にはオモクロームと呼ばれる赤色の色素群が含まれているが、赤とんぼの赤はオモクロームの一つキサントマチンによるものである。キサントマチンは、トリプトファン(人の必須アミノ酸の一つ)から作られる色素で、酸化型は黄色、還元型は赤紫色または橙色を示す。しかも、赤とんぼの雄は成熟すると酸化型から還元型のキサントマチンになって鮮やかな赤色になるが、雌は還元型が増えないので黄色のままにとどまる。このように、雌雄や成熟によって赤とんぼの色が異なるのは、色素物質の変化によるものである。



ハラビロトンボ(未成熟雄) (6月14日)



オオシオカラトンボ(成熟雄) (7月7日)

蓮池では、ハラビロトンボとオオシオカラトンボの写真も撮ることができた。私は子供の頃から、黄色のシオカラトンボをムギワラトンボと呼んでいたが、黄色のトンボはほとんどが雌であった。シオカラトンボの仲間は、雄は成熟すると腹部が黄色から青みがかった灰色に変わるのに対し、雌は成熟しても黄色いままである。シオカラトンボに紫外線を当ててみると、成熟した雄の腹部は強く反射するが、雌は反射しないことが分かってきた<sup>3)</sup>。昆虫の眼は紫外線まで感知できるので、シオカラトンボの眼で見れば光って明るい腹部を持つのが雄、暗いのが雌ということになる。つまり、シオカラトンボは私たちが見ている灰色と黄色とは異なる「色」によって雌雄を見分けているはずだ。もし私たちがとんぼの眼を持つことになったら、今見ているものとは異なる「色」の世界に住むことになる。たとえば、モンシロチョウの雌の羽は紫外線を反射するが、雄は反射しないので、モンシロチョウの雌雄を簡単に見分けられると思う。そんなふうには経験できなかったことがいろいろ見つかっておもしろいだろうと思った。

もう一度とんぼたちの写真を見てほしい。額賀誠志作詞の童謡に「とんぼの めがねは  
ぴかぴかめがね」とあるように、とんぼの眼は鮮やかな色に光沢が加わってとても美しい。  
昆虫には、甲虫類のタマムシ、蝶類のミヤマカラスアゲハ・ミドリシジミなど美しい光沢を  
持つものがあるが、これらは標本にしてもその美しさは失われない。しかし、とんぼの眼は  
標本にすると色はくすみ、光沢も失われてしまう。とんぼの眼の美しさは光と一緒に  
生み出されるいのちの輝きだと、私は思っている。



タマムシ (標本)



吸水するミヤマカラスアゲハ  
2010.7.30 岐阜県大野郡白川村加須良にて

車があった頃、しあわせの村ではテニスとしあわせマルシェ（農産物直売店）での買い物  
をするだけで、その往復を最短時間になるようにしていた。車はこのようにタイパ(time  
performance)にすぐれた道具で、50年近く車を乗り回していた私は生活行動の多くをタ  
イパで決めていたように思う。しかし、年金生活者の今の私にとって車を維持するだけの経  
済力がない。つまり、コスパ(cost performance)の必要にせまられてタイパを支えている車  
を手放すことにした。

車がないと、しあわせの村への往復はバスの時刻にしたがうことになり、しあわせの村で  
弁当が食べられるように早く出かけざるをえない。そうとなれば、お買い得の野菜を買うた  
めにしあわせマルシェの開店時刻に合わせて出発し、テニスまでの余った時間は村内の散  
策を楽しむことにした。こうして、タイパとは正反対の行動パターンに切り替わったのであ  
る。

しあわせの村南部を散歩していたら、思いがけない発見が多くあった。蓮池ではハスの花  
に魅せられただけでなく、訪れるとんぼから高校時代の思い出がよみがえった。その頃、日  
本農芸化学会の学術誌『化学と生物』を読んでいたら、アキアカネの記事が目にとまった。  
それがきっかけで、門外漢であることを省みず国立情報学研究所学術情報ナビゲータ CiNii  
でとんぼについて検索してみた。そうすると、とんぼの色や視覚について新しいことをいろ

いろいろ知ることができ、ムシ好きの好奇心が大いに満足させられた。このように、車を手放したことは家計のコスパが高まったことにとどまらず、思ってもいなかった楽しさまで得ることができた。この楽しさは、ゆったりとした時間があるて生まれたものである。

現代社会では、求めてもいないのに大量の情報が押し寄せてくる。手に余るような量の情報を処理するためには、タイパを重視せざるをえない。このタイパの席卷が多くの人びと、特に若い人が心からの喜びや楽しさが得られない状況を作り出しているのではと、危惧してならない。

- 1) 石田昇三さんは、とんぼに関する図鑑などをいくつか著された方で、トンボの研究はずっと在野で続けてこられたと伝え聞いている。
- 2) 二橋亮(2014) 漢方薬にもなっていたアカトンボの赤色の正体；ファルマシア 50(11) 1086-1090
- 3) Ryo Futahashi et al. (2019) Molecular basis of wax-based color change and UV reflection in dragonflies；Elife 8 2019-01-15



## 玄宮園、日本庭園の魅力

早田孝司 (S56 林産 M)

私は、定年退職後、滋賀県彦根市にある彦根城のボランティアガイドをしています。最も一般的なガイドコースは、彦根城天守と、隣接する大名庭園、玄宮園を巡るコースです。

玄宮園は、江戸時代初期、第四代彦根藩主、伊井直興により彦根城の内堀と琵琶湖の内湖の間に造成された典型的な大名庭園です。池を中心に、岩、樹木、橋、茶室などが配置され、池の周りを巡りながら移り変わる景色を楽しむ池泉回遊式庭園で、国の名勝（観賞的価値の高い場所）に指定されています。

玄宮園からは、彦根城天守を臨むことができます。即ち、国の名勝である庭園から国宝の天守を見上げることができるわけです。優雅な庭園にしながら、一点天守が視界に入ること、実は軍事要塞であることに気付かされ、庭全体に一種の緊張感がもたらされています。



最近、コロナ禍が静まり、インバウンドが高まって欧米からのお客様をご案内する機会が増えました。ネットで調べてガイドの予約をされる欧米からのお客様は、総じて城郭と共に日本庭園に対する関心が高く、多くの方が玄宮園にもガイドの予約を入れて来られます。

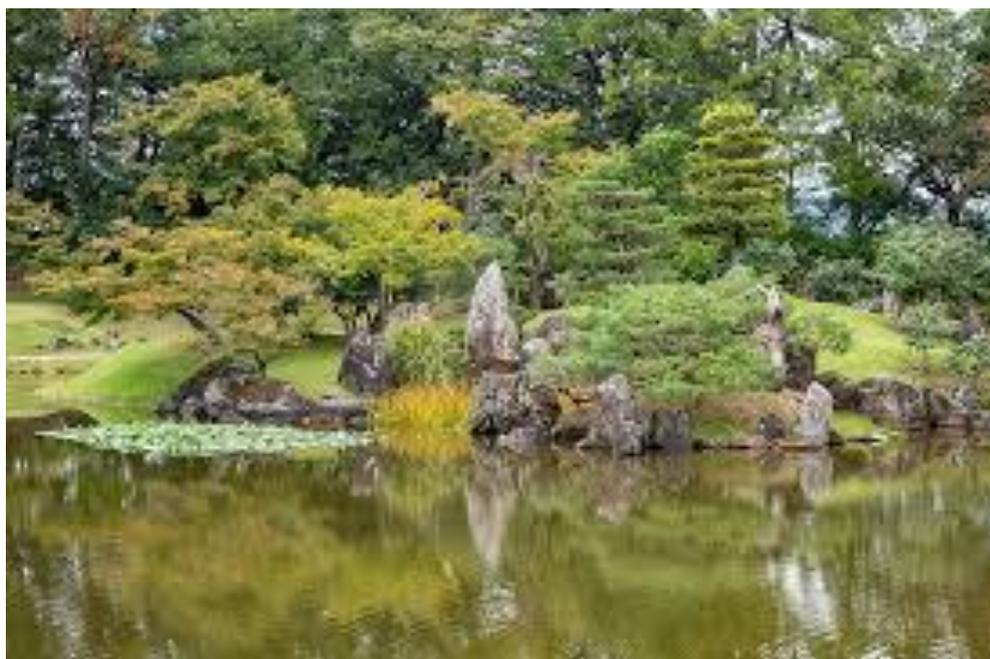
欧米にある西洋庭園は、ベルサイユ宮殿の庭園等を思い浮かべていただくと、しばしば左右対称に、幾何学的なデザインや彫刻、噴水など人工的な要素が配置され、訪れる者に豪華で壮麗な印象を与えます。そこには、元々の自然の風景を征服した人間の誇らしさが表れているように感じます。



対照的に、日本庭園は、元々の自然の風景をそのまま受け入れて活かした、池、石、樹木など自然の要素に、橋や茶室を溶け込ませて織りなす空間です。そこには、自然をそのまま受け入れて調和しようとする日本人の和の心が表れているように感じます。静かな環境と静寂な雰囲気が特徴であり、都会の喧騒から離れて心を落ち着かせるのに最適な場所です。庭園全体は、一つの絵画や詩のように構成され、訪れる者を静寂な自然の美の世界に誘います。また、庭園を歩いて巡ることで移り変わる自然の風景を楽しんでもらえるよう、訪れる者の体験を意識して造られています。例えば、あられこぼしと呼ばれる歩きにくいゴツゴツした小さめの色とりどりの石を敷き詰めた、森のように木々に遮られて池の見えない場所があります。そこでは一旦視線を足元に向けることとなります。そして、あられこぼしが終わって視線を上に向けると、森を抜けて再び池を中心とする庭の風景が現れる、そのような演劇の幕間のような眼を休める効果により、再び現れる庭の風景をより際立たせます。

欧米からのお客様にも、そのような日本庭園の和の心を伝えるように心がけていますが、なかなか伝わりにくいこともあります。例えば、日本人がものを見るときに、抽象的なものを見て具体的なものを思い浮かべる「見立て」については、伝わらないこともあります。

日本庭園には、長寿の願いが込められた鶴島と亀島がよく見受けられます。玄宮園にも鶴鳴渚という上向けに尖った大きな岩を中心にした島があり、その岩をくちばしに見立て、鶴が羽根を拡げて鳴いている様子を思い浮かべます。また、向い会う島の両端の岩を頭と尾、横に突き出す岩を脚に見たてて亀を思い浮かべます。しかし、どこに亀がいるのかと問われてしまうこともあります。もし、子どもが「あっ、亀さんだ。」と思わず叫んでしまうような誰が見ても亀と分かる置物であれば、それはもはや日本庭園ではなく、遊園地になってしまいます。見たてのような日本人の感覚を如何に西洋人に伝えるか、常に心に留めています。



毎年、「大名庭園サミット」という、金沢の兼六園、岡山の後樂園、水戸の偕楽園など、全国10の大名庭園で活動するボランティアガイドが集うイベントが開催されます。コロナ禍で3年間開催されませんでした。昨年復活し、今年は彦根の玄宮園が会場になります。これを機に、日本庭園の魅力を国内外に広く伝えて、町づくりや地域振興につなげていこうと現在準備を進めています。

皆様もお近くの日本庭園を訪ねて、庭園内を散策しながらリラックスする時間を過ごされてみては如何でしょうか。



## 家具づくり

加藤 壽郎 (S45 農 M)

40歳半ばころ、家内から定年後の趣味として、家具づくりをしては、と勧められました。子供のころから建築関係に興味を持っていましたし、高校のころに廃材を使って温室を作った経験もあり、木工を始めることにしました。

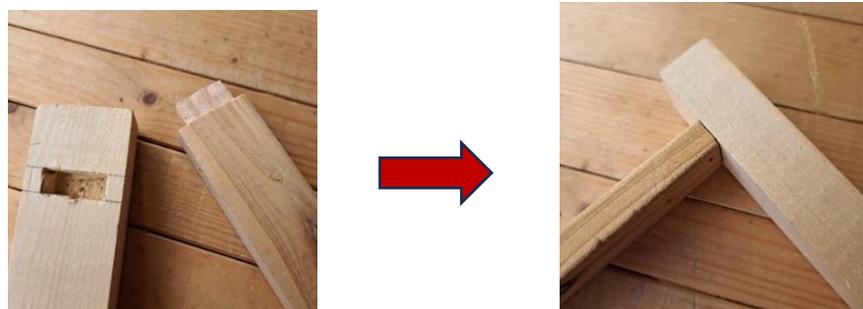
最初は、簡単な額縁の製作から始めました。ラワン材など、安価な材木をホームセンターで購入して、ノコギリ、物差し、彫刻刀などを用意して、取り掛かりました。最初に難しいと思ったのは、額縁を組み合わせるために、縦と横の木を45度の角度で組み合わせるのですが、正確にぴったり組み合わせることができないのです。45度の角度はスコヤという定規を使ってボールペンなどで線を引き、それに沿ってノコギリでカットします。縦と横の木を面としてぴったりと合わさるようにカットされていないと、隙間ができてしまいます。それでもサンドペーパーで調整して、木工ボンドを使って接合しました。接合部分の強度を増すために、接合部分に対して直角の溝を掘って細木を埋め込んで、写真のように留め継ぎをします。額縁に彫刻も入れたりしていくつもの額縁を作りました。



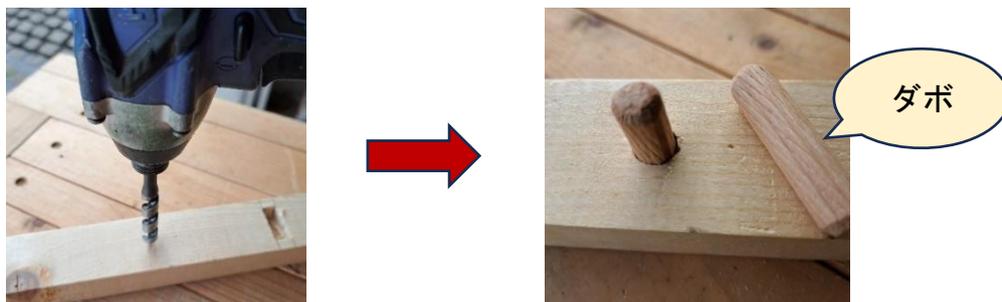
続いて、チェストなど少し大きなものを作るようになりました。しばらくは失敗するかもしれないので、安価な材料を使って楽しんでおりましたが、一度大掛かりなもの製作に挑戦したいと思いはじめました。作ったのはチーク材の飾り棚です。チーク材は、堅くてひずみも少なく、カットや彫刻もしやすいので、家具に適した木材ですが、高価です。失敗は許されません。試行錯誤して、何とか、写真のようなものができました。彫刻も入れて、自分としては大いに満足しました。この時、思ったのは、家具づくりは、技術もあるけれど、デザインが大変重要だということでした。デザインが良ければ、技術が少々悪くてもよく見えますし、デザインがまずいと、上手く作ってもきれいには見えないということです。デザインについては、家内から相当助言を受けました。



木材の接合は、オーソドックスには、ホゾとホゾ穴を細工して行います。ノミと木槌で穴を掘り、ホゾは目の細かいノコギリとノミで作ります。結構手間がかかります。



ズボラにやるときは、電動ドライバーで穴をあけ、そこにダボを写真のように差し込んで、接合する相手の木材にも穴の位置が合うようにして穴をあけ、接合します。



肘掛け椅子も作ってみました。これは、正直、難しかったです。材料を直角で接合することは比較的うまくいくのですが、椅子の場合、傾斜や曲線が必要ですから、斜めの角度での接合とか、曲線のカットが必要となりました。そこで写真のようなジグソーという電動工具を手に入れ、板をテーブルに固定してカットしました。最近、様々な電動工具が手に入るようになり、作業もしやすくなりました。



今、家の中にある家具は、自作のものがほとんどとなりました。食堂のテーブル、書棚、長椅子など、作ったものは今も使っています。そのほかに、孫の勉強机を頼まれて、折り畳み式の机を作りました。



娘が台所に食器棚を置きたいというので、これも台所のサイズに合わせて作りました



木工の材料となる材木は、ホームセンター、木材店、通販などを通して買っていますが、この食器棚は、新木場の木材店から送ってもらったもので、カナダのスプルース材です。木肌がきれいで、節もほとんどなく、細工もしやすい材料でした。

木工の作業は、さらに本格的になり、我が家の小さな庭を少しでも有効に使いたいと、ベランダを作りました。ベランダの上に、ブドウなどつる性の植物を誘引できるように、柵を作りました。ベランダには、最も耐久性のあるというウリン（アイアンウッド）をつかいました。この材木は比重が高く、とても重く、堅いので、耐久性があります。取り付けしてから10年以上たちますが、まったく朽ちることはありません。



上の右の写真は、作った当初のものです。左は現在の姿です。冬ですから、ブドウなどの葉は全て落ちていますので、取り付けた柵の形がよくわかると思います。柵に使っている材木は針葉樹のものがほとんどですが、防腐剤入り塗料で保護していても、やはり、腐朽菌などが入って腐食してきます。冬の間、腐った部分を取り換えたり、塗装をし直したりと、忙しい毎日です。

家具づくりを始めたおかげで、退職後の楽しみも増えました。人生100年時代といわれる今、自分の性に合ったことを続けられる幸せを感じています。



関西セコイア会の現在の役員

支部長	加藤壽郎 (S45 農 M)
事務局長	寺前朋浩 (S61 生 M)
会計	井野右文 (H4 農 M)
会計監査	野村章 (S45 農 D)
顧問	入野哲朗 (S54 林産)
顧問	駒田肇 (S55 林産 D)
顧問	大賀久美子 (S54 農化)
顧問	沖森泰行 (S56 林)

編集後記 お陰様で第五号の会報をみなさまに配信することができました。今回はやや少なめのご寄稿でしたが、楽しい内容で、ご参考になったのではないかと思います。ご寄稿いただきましたみなさまに感謝申し上げます。みなさまからのご意見、ご感想など、下記まで、お知らせいただければ幸いです。関西セコイア会のみなさま、今後ともぜひご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

(支部長 加藤壽郎)

事務局長 寺前朋浩 [kssequoia23@gmail.com](mailto:kssequoia23@gmail.com)

支部長 加藤壽郎 [jardin-kato@hera.eonet.ne.jp](mailto:jardin-kato@hera.eonet.ne.jp)